



# 広島東支部 広報だより

広島県看護協会広島東支部会員数

保健師	69人 (入会率50%)
助産師	30人 (入会率70%)
看護師	1,301人 (入会率55%)
准看護師	67人 (入会率 5%)
合計	1,442人 (入会率42%)

## 支部長挨拶

### 看護連携で絆を深める広島東支部活動を

広島東支部長 堀江 玲子



平素より、広島県看護協会広島東支部の活動にご理解とご協力いただき、感謝申し上げます。2020年度広島東支部長を務めさせていただきますJR広島病院の堀江玲子です。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、計画していた研修会、交流会や、イベント活動は、中止となりました。

皆様におかれましては、日々の生活も一変し、医療

現場では感染防止対策、体制整備に尽力されていることと思います。

今後、感染防止対策をさらに徹底し、研修会を縮小しながら開催予定としています。支部役員、施設代表者、会員の皆様と協力し、看護職が活き活きと働き続けられるよう、地域連携、看護連携を図り、支部活動を行いたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

## 2020年度 広島東支部総会

2020年4月18日(土)、2020年度広島県看護協会広島東支部総会開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、総会は中止、書面審議となりました。

## 2020年度 役員紹介

- 支 部 長 堀江 玲子 JR広島病院
- 副支部長(連盟担当) 和田 朱美 マツダ病院
- 副 支 部 長 池田ひろみ 済生会広島病院
- 幹事(総務) 川口三恵子 マツダ病院
- 幹事(財務) 小早川清美 太田川病院
- 幹事(社経) 田中 正志 安芸市民病院
- 幹事(教育) 新田由美子 JR広島病院
- 幹事(教育) 間所 明子 太田川病院
- 幹事(教育) 松下 桂子 済生会広島病院
- 幹事(教育) 遠藤 泰子 広島県看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」
- 担 当 理 事 萩原七帆子 安芸市民病院
- 事 務 中原 麻裕



## コロナ禍の取組について

新型コロナウイルス感染は2019年末頃から徐々に拡大し、4～5月は非常事態宣言も出されるまでになりました。その後も刻々と環境は変化し、医療現場は感染防止対策の徹底を求められるなど大きな影響を受けています。コロナ禍における各施設の取組について一部ですがご紹介します。

### JR広島病院 コロナ禍における透析センターでの感染予防に対する取り組み

谷 裕二

日本透析医学会よりCOVID-19感染対策について、患者教育の徹底・医療従事者への注意・COVID-19疑い患者への感染対策・个人防护具の着用と環境表面の清掃・消毒についての対応が示され、当院透析センターでも、指針に従い感染予防に取り組んでいます。

患者教育として、毎日の体温測定と健康状態の把握をお願いしています。発熱・感冒症状がある場合には来院前に電話連絡をするように指導し、感染患者の早期発見に努めています。マスク着用・手指衛生の習慣を確立できるように声掛けを行い、すべての患者が透析中にマスクを着用し、アルコール手



指消毒剤での手指衛生も徹底しています。

感染が疑われる患者に対しては感染対策チームと連携し、有熱者外来・陰圧設備のある個室で検体採取を行い他患者との接触

防止を図り、空間的・時間的隔離を行い感染拡大防止に努めています。

スタッフに対しては、標準予防策に加え、接触・飛沫感染予防策についての指導を行いました。自らが感染源とならない事、COVID-19に対して特に手指衛生・環境清掃の重要性を周知し、スタッフ全員で患者周囲の環境清掃を毎日実施しています。手指衛生遵守率・消毒使用量も増加しており感染予防に対するスタッフの関心も高まっています。またスタッフの健康状態の把握として始業前に体温を記載し、体調不良時には休みを取りやすい風土を作れるように声掛けを行っています。

血液汚染リスクの高い透析センターでは个人防护具の着用は常態化していますが、COVID-19患者に対する个人防护具の着用・脱ぎ方について、感染対策室より指導を受けスタッフが安心して个人防护具を装着できるように調整を行いました。

今後も透析患者・医療者が協力し感染対策を行い、患者・スタッフが安心して透析できる環境を提供できるよう心掛けていきます。

### 広島市医師会運営・安芸市民病院 コロナ禍における当院での対応・今後の展望

田中 正志

新型コロナウイルス感染症による影響で当院においても様々な面で制限が強いられています。そうした状況の中で、感染管理認定看護師を対策本部長とし、絶対にウイルスの持ち込みをさせないことを病院内の共通認識としています。関係者により毎週1回「新型コロナウイルス感染症対策会議」を開催し、コロナ禍における状況でできる対策を検討しています。当院での感染症対策における取り組みを紹介します。

まずはウイルスの持ち込みを確実に抑えるため、病院入口での全職員によるトリアージを行い、発熱者や有症状者を所定の待合へ案内しています。感染管理認定看護師が毎月開院時間にトリアージするための担当枠を作成し、各部署で配置につく可能な時間帯を入力できるシステムを確立しています。各職種が業務に追われる中、能動的に少しずつ時間を提供し、そのひとつひとつが病院全体で取り組む大きな力となり、中断することなく継続しています。

また入院患者への感染拡大を予防するために面会を制限しています。当院には緩和ケア病棟があり、看取りを迎える患者

も多数います。重篤な患者においては約束事を設けることで、段階的に面会制限を緩和する配慮をしています。それでも感染が流行している地域からの面会はお断りしています。そうした方々が最期まで面会できない状況を回避するために、リモート面会を早い段階から準備し活用しています。病院の受付と病室をつなぐ院内LANを使用する方法と、Wi-Fiルーターを使用し遠隔地からも可能にする方法を設定しています。

今後の展望については、継続した感染対策が必須となるため、患者や家族、職員を含め全ての人が安心して来院できる病院となるよう、日々改善をしていきます。感染対策は「～しないといけない」「～してはいけない」など否定的なことが全面に出やすいのですが、工夫すればできることはたくさんあるため、「できる感染対策」を増やすことを念頭においています。今後も感染管理認定看護師を中心として、全職員が一丸となって感染対策に取り組んでいきます。



**医療法人社団 輔仁会 太田川病院 「コロナ禍における各施設の対応・今後の展望」**

感染管理者 小早川 清美

新型コロナウイルス感染症は全国的に拡大し広島県内でも陽性者が増え、11月に入りますます増加傾向となってきました。

新型コロナウイルス感染症に対する対応策を他病院との合同カンファレンスや保健所等の研修会に参加し、情報を得て状況を踏まえて随時修正を行いながら感染対策に取り組んでいます。

外来の対応では、体調不良や発熱している患者に対して問診を行いコロナウイルス感染が疑われる患者に対して、車内で待機をしていただいたり、熱発者専用の部屋で待機していただいたりしています。診察時は医師が患者の待機している場所へ行き、抗原検査やPCR検査を行い、他の患者やスタッフの接触が最小限となるよう診察を行っています。現在は陽性患者が出ていませんが、疑いのある患者に対してもマニュアルに沿って対応していき感染が拡大しないよう取り組んでいます。今後は、インフルエンザや新型コロナウイルス感染等の発熱患者に対応できるよう外来の改修工事を行う予定です。

病棟では、患者の外出・外泊は原則禁止していますが、当

院以外の病院受診時は主治医の許可を得て、マスク装着・手洗い及びアルコール消毒を実施することを指導し外出を行っています。患者の家族に対しては面会制限を行い、洗濯物等に関しては時間指定で受け渡しを行っています。この時も来られた家族の体温や体調について問診を行い、健康チェックを行っています。ただし、病状によりキーパーソンのみ面会を許可する場合があります。

職員に関して、密にならないように院内研修を録画し、各部署で視聴できるよう動画配信しています。また、不要な移動を自粛するよう声掛けを行っていますが、院外研修や外出する際は医療従事者として相応しい行動をとるように指導しています。

今後も新型コロナウイルス感染症は続いていくと考えられます。一人一人がマスク装着、手指消毒はもちろん院内・院外でも3密(密閉・密集・密接)を避ける行動がとれるよう考えていきたいと思っています。

**広島県看護協会訪問看護ステーション「ひろしま」 コロナ禍における訪問看護ステーションの対応と今後の展望**

遠藤 泰子

新型コロナ感染拡大に伴い、広島県看護協会訪問看護事業局で対策について話し合いました。「新型コロナウイルス感染症対策」を立て、県内5か所の看護協会立ステーションで共有し、対応しました。この対策は感染状況に応じてその後も更新を続けています。

感染拡大に伴って、特に大変だったのは以下の3つの課題でした。1つは、人の移動の制限をどうするか、2つは、感染対策をどこまでするのか、最後に、3密防止をどうするか、でした。

人の移動についてです。非常事態宣言が発令された3月~4月は、春休み時期で、卒業や入学シーズンでした。訪問看護の利用者、家族、ステーション職員も例外ではなく、県外移動の希望が当然起こり、どのようにすればいいのかということに直面しました。事業局の感染症対策に沿って4月は県外移動を制限し、県外移動した場合、職員は2週間の特別休暇所得、利用者や家族も2週間訪問看護休止するということを、利用者、ご家族にも提示させていただきました。現在は、移動地域の状況と、個人の事情に合わせて対応しています。

感染対策については、報道でも言われていたように、マスク、手袋、消毒薬、ビニールエプロン、体温計の不足に直面しました。利用の優先度の整理、在庫がなくなった場合の代替品の考案、看護協会立ステーション内で不足が大きいステーションに在庫分を回す等でも対応しました。行政や日看協から消毒薬等の支援物資が届き助かりました。現在は充足してきましたが、こまめに在庫をチェックしいつもより多めに物品を備蓄しています。

3密対策についてです。4月に事業所の滞在時間を減らすことを職員に伝えた時には職員も顔を見て情報交換ができない環境に戸惑いました。しかし、昨年9月に、クラウド型訪問看護システムを導入し、全職員にiPadが貸与されていたため、比較的スムーズに直行直帰を推奨することができました。現在も事務所の滞在時間を減らすことは継続し、所長会議や委員会もTeamsを活用しています。

新型コロナウイルス感染拡大が、いまだ収束する気配も見えない中、これからは柔軟な頭で、今までのやり方にとらわれない新しい働き方、新しい考え方を持って対応していく必要があると考えます。



研修報告

組織強化研修

『摂食・嚥下障害高齢者の食べることを支えるケア』

講師 済生会広島病院 摂食・障害看護認定看護師 中間 弘行先生

日時/令和2年12月5日(土) 14:00~16:00 場所/JR広島病院

看護協会活動と看護連盟活動についての報告後、研修『摂食嚥下障害のある高齢者の「食べる」ことを支えるケア』が、済生会広島病院の摂食・嚥下障害看護認定看護師である中間弘行先生を講師に迎え、開催されました。

広島市内でも新型コロナウイルス感染者が増加している中、広島県看護協会が定める感染症対策を徹底し、規模を縮小しての開催となりましたが、非会員を含め31名に参加していただくことができました。研修では、高齢による機能低下や摂食嚥下障害の病態を理解し、嚥下機能の評価方法・5期モデルに沿いながら摂食嚥下訓練や看護のポイントについて学びました。また研修資料は動画や画像が豊富であり、先生の説明も丁寧で分かりやすいと好評でした。高齢者にとって「食べることは生きる活力であり、チームで連携して「食べることを支えるケア」に介入することは、患者・家族が望む楽しみや喜びへと繋がる可能性を強く感じた研修会となりました。

教育担当 間所 明子



▲ 講師  
中間弘行先生



▲ 教育担当  
間所明子

ご案内

看護研究発表会の開催

日時 令和3年2月27日[土] 13:30~15:00

場所 済生会広島病院

皆様の御参加を  
お待ちしております

● 演 題

〈第一群〉

1 病室形態別の認知機能低下なる高齢者の  
BPSD出現の変化と傾向

済生会広島病院 岡田 望

2 心臓カテーテルシミュレーション教育の導入  
～多職種によるシミュレーション教育の実践と評価～

JR広島病院 笠原 恵子

3 透析中のシャント肢痛の事態調査と看護介入の効果

太田川病院 松浦 文

〈第二群〉

1 自宅退院希望のある後期高齢者が自宅に帰れない要因

マツダ病院 力前 美穂

2 ライン類・ドレーン類の自己抜去を  
未然に防ぐための視点・対応策

JR広島病院 瀬川 拓也

3 A病院におけるERCP時の顔面の発赤・浮腫・  
疼痛を軽減するための取り組み

済生会広島病院 新宮 千穂

看護研究のサポート

指導教員による4回のサポートが受けられます

7月から広島国際大学の下見先生の指導の元、看護研究に取り組んでいます。先生は、私たちの意向を汲み取りながら、的確な指導をしてくださるので、研究に対する不安も解消し、限られた時間の中でも、毎回有意義なサポートとなっています。さらに、担当者の方にも、先生との連絡調整・オンライン指導など、十分なサポート調整をさせていただいており、意欲的に楽しく研究を進める事ができています。

済生会広島病院 岡田 望



看護研究に対するイメージは「大変」と思っている方が多いのではないのでしょうか?私自身、看護研究をネガティブに捉えていました。しかし、指導を受け看護研究を進めるうち「思ったほど大変ではなく、研究は楽しい!」と感じるようになりました。また、今回、コロナ禍で看護研究をすることになったためリモートによる指導も体験しました。講師による優しく的確な指導により、実りある看護研究となりました。今後の看護に生かしていきたいと思えます。

JR広島病院(2001年入社) 1G放射線科 看護師 笠原 恵子



編集後記

総会が書面決議となり研修会も中止となる等新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた2020年度でしたが、改めて看護の力の大切さを感じた一年でもありました。／遠藤

[発行日] 2021年2月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島東支部  
〒732-0052 広島市東区光町1丁目6-8 第二吉岡ビル 603号室  
TEL/FAX:082-262-3524  
E-mail: s-higashi@nruse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 堀江 玲子